

「あるあるネタ」によって生じるユーモアの生起メカニズム

川合 修平

ユーモアは我々の日常生活に欠かせないものであり、これまでに様々な研究が行われてきた。その結果、ユーモアの生起メカニズムを説明する理論として不適合理論と優越感情理論が考えられ、有力視されてきた。しかし、それらの理論では説明できないユーモア刺激も存在すると考えられる。

近年、多くの人が日常生活で体験している、ありがちな事柄、ほんの些細な事柄をネタにして笑いを取る「あるあるネタ」と呼ばれるユーモア刺激が見られるようになった。この「あるあるネタ」の中には、不適合理論や優越感情理論でユーモアの生起メカニズムが説明されないユーモアが生じるものが存在すると考えられる。こういった文章ではどのようにしてユーモアが生起するのか考察した。

おもしろさを生じさせる理論の中に「理解に干渉してくる新奇な情報や重要な情報が、理解の代替的な目的であるおもしろさを引き起こす」という考え方がある。「あるあるネタ」を読んだ際にそこで描かれている状況を見たことがあると感じ、気づきが得られた際に「知識の再発見」が生じる。笑いとおもしろさは大きく重なり合う概念であり、時としてそのおもしろさが笑いに知覚される場合もあると考えられる。しかし、「知識の再発見」によるユーモアの生起メカニズムはこれまで提案されていない。よって、不適合理論や優越感情理論でユーモアの生起メカニズムが説明されない「あるあるネタ」では、「知識の再発見」がユーモアを生じさせるという仮説と、不適合理論や優越感情理論でユーモアの生起メカニズムが説明される「あるあるネタ」においても、「知識の再発見」がユーモアの度合いに作用するという仮説を立てた。

仮説を検証するために、質問紙で「あるあるネタ」の文章を読んだ際に感じた「ユーモアの度合い」、「『見たことがある』と感じた度合い」、「『知識の再発見』の度合い」、「不適合理論で説明されるユーモアの生起因が知覚されたか」、「優越感情理論で説明されるユーモアの生起因が知覚されたか」を被験者に評価してもらった。

30人のデータを集め、それらを分析した結果、不適合理論や優越感情理論で説明されない「あるあるネタ」が存在することが示された。また、そのような「あるあるネタ」の文章において、ユーモアの度合いと「知識の再発見」の度合いとの間に有意な相関が見られ、「知識の再発見」によってユーモアが生じることが示された。しかし、不適合理論や優越感情理論で説明される「あるあるネタ」の文章では、「知識の再発見」の度合いとユーモアの度合いに相関が見られず、「知識の再発見」はそれらの理論で説明されるユーモアの生起因に比べるとユーモアに対して作用の度合いが低いことが示唆された。

(指導教員 中山伸一)